

経済マンスリー

[原油]

OPEC は 8 年ぶりの減産で合意

原油価格（WTI 期近物）は 8 月初めに 1 バレル=39 ドル台と 3 ヶ月半ぶりの安値をつけたが、OPEC 非公式会合が 9 月下旬に開催されるとの発表を受けて供給過剰解消への期待が高まり、同月中旬以降は同 40 ドル台後半にレンジを切り上げた（第 1 図）。9 月も引き続き非公式会合の行方に注目が集まり、増産凍結合意への期待や合意見送り観測が入り混じる展開が続く中、WTI は同 45 ドル近辺の狭いレンジで推移した。同月 28 日、アルジェリアでの会合で OPEC が市場の事前予想に反して減産で合意すると、WTI は前日比 +2.38 ドルと大幅上昇し、同 47.05 ドルと 3 週間ぶりの高値となっている。

2008 年以来、約 8 年ぶりとなる減産合意の内容を具体的にみると、①OPEC 全体の原油生産量を 3,250~3,300 万バレル（日量、以下同）に制限すること（8 月生産実績：3,324 万バレル）、②11 月 30 日開催予定の OPEC 総会に向けて加盟各国代表から成る委員会を設置し、各国の生産水準を検討すること、が決定された。また、OPEC 非加盟国にも協力を求めるとしており、ロシアも協調していく方針とみられる。

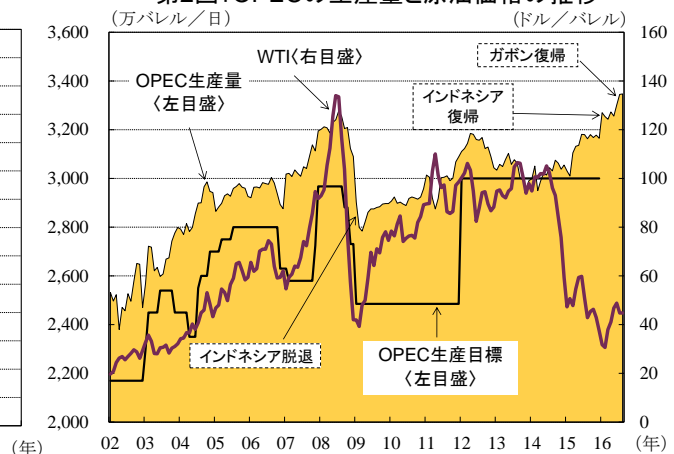
OPEC は、今年 4 月のドーハ会合や 6 月の総会では、協調行動への合意ができずに終わったが、今回合意に達した背景には、原油価格の低迷が長引いており、サウジアラビアを始めとする産油国の経済・財政状況悪化への懸念が強まっていることがある。会合後の声明文では、こうした懸念に加え、原油安を背景とした石油部門への投資削減が将来的な供給不足につながるリスクも指摘されている。今後、国別の生産上限設定を巡っては、意見対立や調整難航も予想されることから減産の実効性を疑問視する向きもあり、原油価格が一方的に上昇するのは想定し難い。しかしながら、今回ようやく OPEC として原油安への対応策を決定したことは、下値不安を相応に軽減する材料となろう。

第1図：原油価格(WTI期近物)の推移



(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第2図：OPECの生産量と原油価格の推移



(資料) IEA資料、Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京UFJ銀行 経済調査室 篠原 令子 reiko_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。